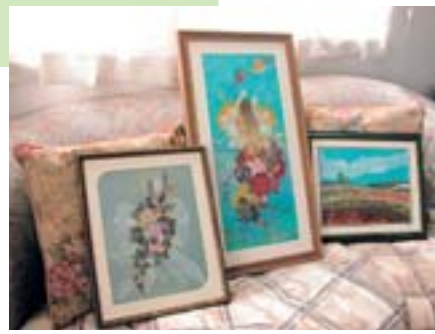




6月号
平成15年



題字制作 佐々木 静子さん (押し花で「ていねつうしん」と作っていただきました)



佐々木 静子さん
押し花サークル
「ナチュラル」代表責任者

花の持つ表情を伝えていきたい

「散歩をしても、すぐ道端の草花に目が行ってしまうんですよ。押し花にしたらどんな表情を見せてくれるのか気になって」と、笑顔で話す佐々木静子さん。現在手稲区民センターで押し花サークル「ナチュラル」を、星置地区センターで押し花教室「悠遊百花」を開いており、作品展も実施しています。

押し花との出会いは高校生の時。押し花に詩が添えられた作品と出会い、興味を持ち始めました。高価な花だけを使うわけではありません。キノコ、ブロッコリー、ネギ、ブドウの皮、さらには雑草など、身近なものも大切な素材として生かしています。

「花の持つ一瞬の美しさを、形あるものにとどめたい。そしてその美しさを、少しでも多くの方々に伝えられたら」。今後、手稲の草花を中心とした作品展も開きたい、と楽しそうに話してくれました。



▲押し花サークル「ナチュラル」のみなさん (前列中央が佐々木さん)